

2021（令和3）年度 施設評価について

施設の自己評価

2020年度末に行った職員の自己評価と保護者アンケートを基に、清水みらい保育園として、施設の自己評価を集計・考察しました

2021年度を振り返って

1. 保育の理念・目標・計画・評価

キャッチコピー

「おとなも、子どもも楽しいことを見つける保育園」と会議で決めてから令和3年度が始まった。

- ・理念は「子ども一人一人を大切にしたい子どもを主体とする保育をする」という部分を主に意識している職員が多く、日々の保育をその日に省察しクラス内で対話を深め次の日の計画を立てることができた
- ・園の理念の方向性が分からないという職員から、保育をデザインしてほしいという要望が出ている

2. 保育の内容

- ・各歳児クラスが、少人数になり時差を付けた生活の流れを確立していた
そうすることで、子ども一人一人の成長を感じ取り穏やかな保育の実践につながった
- ・クラスごとのお楽しみ会や行事を行う事で、保育者自身が行事への興味がわき日本ならではの文化を調べ学ぶようになり、それを子どもが理解できるような工夫を積極的に準備をおこなっていた
- ・子ども達の良い面を多く見つけられるようになった
- ・コロナ感染対策をとる中で、感染症や熱中症等の危機管理も向上した
- ・物的環境を整えると、子どもの姿が変わり主体的とはどんなことなのか実感した

3. 保育園の組織・役割分担

- ・管理職の役割分担をしたが、役割の意味理解が困難でうまく機能していなかった
- ・年間行事等の係が負担になっていた

4. 家庭・地域社会との連携

- ・コドモンのアプリを取り入れドキュメンテーションを使い、子どもの発達を保護者へ毎日発信したことで、お迎えの時にその日の出来事についての会話ができるようになっていく

- ・緊急のお知らせをコドモンで行う事で、閲覧していない保護者が迅速に分かり対応が柔軟にすることができた
- ・保護者が参加する行事は、クラスごとで行う、ライブ配信等の工夫をして実施してきたしかし、対面での良さを知っている保護者にとっては不満が残ってしまった

5. 事務管理・運用

- ・個人記録簿は適切に記載し整理保管している
- ・職員に園内で知りえた事柄に対しての守秘義務を周知徹底している

6. 情報発信

- ・保育園だより、クラス便り、食育だより、ホームページ、on-line等で施設の情報を発信している

7. その他

- ・園内研修を通して保育士の専門性とは何か、働くとは何か、社会人として等多面的に物事をとらえることの必要性を学べた

まとめ

今年度は、職員一人一人が1年間の研修課題と研修計画を立てていた為、日々の保育実践に対して、疑問や課題を解決しながら過ごすことができていたと感じている。

また、学びを実践に結び付ける、保育士間での対話を深めることができた職員は生き生きとしていた。しかし、理念の方向性が分からないという職員にとっては、わからないことがわからないという状況になり、その解決策を施設長として提示し道しるべを示すことが出来ずに終わってしまった

来年度は、子どもの主体の保育の原点に立ち戻りゼロからのスタートとしていくことが保育の質向上の足掛かりになると考える